

令和 7 年 4 月 30 日

研究研修・調査報告書		会 派 名 まつかぜ	
		代 表 者 名	
		無所属議員名 坂本 まり	
研究研修・調査 議 員 名	坂本 まり		
研究研修・調査 日 程	令和 7 年 4 月 15 日 (1 日) ～年 月 日		
研究研修・調査 報 告	1	研究研修会開催地・調査先進地 大阪府高石市	
		研究研修・調査内容	
	2	研究研修会開催地・調査先進地	
		研究研修・調査内容	
	3	研究研修会開催地・調査先進地	
		研究研修・調査内容	
	4	研究研修会開催地・調査先進地	
		研究研修・調査内容	
	5	研究研修会開催地・調査先進地	
		研究研修・調査内容	

研究研修・調査報告（所感、提言事項、課題等）

1

研究研修会開催地・調査先進地

高石市

研究研修・調査内容

南海電鉄連続立体交差と駅前再開発

面談者：高石市長 畑中政昭氏

議会事務局次長兼総務課長 北野哲也氏

前担当（現教育部次長） 石栗雅彦氏

土木部：次長・事業推進室事業課長 泉原裕一郎氏

事業推進室駅周辺整備課課長 星野和久氏

課長代理 岸靖浩氏

高石都市開発株式会社 代表取締役 西山正人氏

10時から会議室にて、事前質問2テーマについて資料をもとに説明を受け、その後「アプラたかいし」と駅前エリアを現地視察。以下Q & A方式にて報告します。

テーマ1) 駅の高架について

Q 同計画はいつ頃に出てきたのか→A：別添の通り昭和44年から検討。

Q 高架が計画された理由→A：踏切の渋滞緩和

Q 高架事業の総事業費とその負担割合について→A：764億円（当初は583億円）市の負担は約15%、事業主体は大阪府（対象は4.1km）

テーマ2) 駅周辺整備について（下記中の資料とは「高石駅周辺整備基本計画」をいう）

Q 駅周辺整備の前後で建築物としてどの様になったのか。

→昭和60年の都市計画決定の頃とは様変わり。平成12年着工で従来臨海部にあった文化ホール等を当該駅前に移動。その後「アプラたかいし」という集客施設を展開し地域の拠点となっている。加えてリブラウンディング事業として令和2年には経済産業省の「中小企業経営支援等対策補助金」、同3年には国土交通省の「官民連携まちなか再生推進」を活用して素晴らしい空間に再生させている。因みにリニューアル前（令和2年度）の年間購買者数は25万2千人に対しリニューアル後（令和3年度）は37万人に増加している。

Q 資料によると民間消費の市外流出比率は-10.1%（流出額130億円）の状況下、スーパー4店舗が出店した経緯と継続出店できている理由をどのように捉えておられるか。

→推測として住民の多くが徒歩圏内で駅を利用できる為、スーパーに対しては高いニーズ、購買力が今だに存在している。

Q 資料にある周辺人口の定義は。

→別添あり資料の通り 4 地区に区分

Q 協働で取り組んだ周辺事業者とはどのような事業者なのか。

→南海電鉄、高石都市開発（株）、高石商工会議所、UR で駅街連携会議を作り実施

Q 市有地・民有地の連携の進め方（計画前後の用途含む）について。

→用地交換、水道じき、里道じきは機能廃止、等々を行った。

Q 整備方針にあるコンセプトの決定プロセスについて。

→アンケート、パブリックコメント、駅まち連携会議、ワークショップ等実施

Q 多世代交流モニュメントとして工夫されていることは

→駅前広場は道路の位置付けながらもイベントが出来るように電源や照明を設置。人が滞在出来るように考えている。

Q 既存の店舗の営業（休業）保証は

→営業保証を行った。

★総括的に下記の感想である。

●駅前再開発事業において、駅前広場を芝生化し様々なイベントに活用可能な空間が作られている。ショッピングモール「アプラ高石」では 3 階 4 階に公共施設が配置され図書館があるにも関わらず 2 階に書店が存在している。また 800 席の文化ホールがある等文化や生涯教育の姿勢が素晴らしい。加えて屋内に子育て支援施設として、就学前児童が楽しめる子育てウェルカムステーション「HUGOOD」を設け他市町からの来場者が多くおり、事業目的であるウォークブル推進都市としての「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を実現されている素晴らしい取り組みを学びました。

●連続立体交差事業の事業費構成における国・県・市、鉄道会社の負担割合や、事業認可へのスキーム、再開発事業手法を学ぶ等、様々な知見を高めることができた。

●長い歴史の中で文化ホールを駅前に移設したことは将来を見据えた見習うべき政策。また官民連携で運営している「アプラたかいし」は人の動線やニーズを意識した上で人が訪れたくなる店舗や空間演出があることが非常に印象に残っている。高砂市も諦めることなく学んだことから反映できることを反映していかなければならないと感じた。

令和 8 年 1 月 23 日

研究研修・調査報告書		会 派 名	
		代 表 者 名	
		無所属議員名	坂本 まり
研究研修・調査 議 員 名	坂本 まり		
研究研修・調査 日 程	令和 8 年 1 月 15 日 ~ 年 月 日		
研究研修・調査 報 告	1	研究研修会開催地・調査先進地 兵庫県加古郡播磨町	
		研究研修・調査内容 北古田周辺地区まちづくり計画について	
	2	研究研修会開催地・調査先進地 兵庫県加古郡播磨町	
		研究研修・調査内容 中学校部活動の地域展開について	
	3	研究研修会開催地・調査先進地	
		研究研修・調査内容	
	4	研究研修会開催地・調査先進地	
		研究研修・調査内容	
	5	研究研修会開催地・調査先進地	
		研究研修・調査内容	

研究研修・調査報告（所感、提言事項、課題等）	
1	研究研修会開催地・調査先進地 兵庫県加古郡播磨町
	研究研修・調査内容 北古田周辺地区まちづくり計画について
播磨町では、北古田地区の調整区域のまちづくりについて、町が地権者団体に様々な手法を提供しながら、最終的には令和１２年度の県都市計画マスタープランの市街化区域への参入を目標に取り組んでいる。 高砂市の明姫幹線南地区のように地区計画の策定を最終目的とされていない点が大きな違いであると感じ、学ばせて頂きました。 播磨臨海地域道路の計画にそった形で、地区計画だけでなく、区画整理事業や民間開発も検討の一つとして提供されており、居住地域と産業誘致地区に分けるなど、将来的なまちづくりの進め方も学ばせて頂くと共に、まちづくり協議会の発足や事業の進捗を町のホームページで全て公開されるなど、町民へしっかり広報されている状況等も学ぶことが出来ました。 高砂市でも実施可能なこともあり、これからの活動においてできるだけ反映するように取り組んでいきたいと思います。	

研究研修・調査報告（所感、提言事項、課題等）	
2	研究研修会開催地・調査先進地 兵庫県加古郡播磨町
	研究研修・調査内容 中学校部活動地域展開について
【播磨町の理念】 子ども First を基本理念に誰 1 人取り残されない環境の整備（学びの保障）を行政主導のもと目指すことを、明言されている 地域展開は地域に丸投げする事では無く、あくまで行政主導で責任をもって進めていくという決意のあらわれである 【播磨町の目指す姿】 これまでの学校部活動のレベルを落とす事なく、中学生にとどまらず、播磨町の生涯学習環境の更なる充実を目指す そのうえで、体験格差の解消をし、誰 1 人取り残さない環境整備し、ふるさとを愛し自らの夢や目標に向かって主体的に努力する子どもの育成を目指すとのこと そのほか、具体的な課題や現時点での目指す姿の乖離もしっかり把握され、改善策も示されていた また、保護者アンケートから、受益者負担の適性額も検討し、公費負担することで可能な限りの低廉な会費を設定予定とのこと 現場の先生方にはアンケートだけでなく、直接の面接も実施済みで、どれだけの先生方が今後も関わってくださるかなども把握 安定した財源の確保や、施設利用のルール改正、学校施設の有効活用、指導者の量だけでなく質の保障への取組み、地域クラブの認定制度について、今後の庁内での組織体制の整備などなど 高砂市では整理できていない点についても、細部にわたり、お聞きすることができた 【播磨町のまとめ】 多世代・多種目・多志向の新たなスポーツ、文化芸術環境の再構築 『まちづくり』＝『ひとづくり』 <u>部活動地域展開を子育て支援として位置付け推進</u> →播磨町では、首長も教育委員会もその理念を共有し、しっかりと進められている 多くの学びをいただきましたので、しっかりと提言に繋げ、部活動地域展開が、より良い形で進めていけるよう取組んでいきたい	